

第7回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 議事録

日時：平成23年1月14日(金) 14:00～16:00

場所：三木市総合保健福祉センター 出席者：別紙のとおり

開 会

- ・ 会長より、協議会から民主党および国土交通省に対して、3年間の活性化・再生総合事業計画期間中の国の支援の継続と、地方鉄道への国の支援の充実を求める要望書を提出した旨報告された。
- ・ 三津澤委員より、日本民営鉄道協会からは鉄道が地域輸送の役割を果たせるよう、私鉄総連からは粟生線の存続に向けた予算を確保するよう、民主党および国土交通省に要望書が提出された旨報告された。

また、昨年(11/27)の神戸新聞報道に関して、本年度の計画目標の達成が困難になってきたこと、補助制度が見直しされること等の状況から、神戸電鉄としては粟生線を存続したいと考えているが、そのためには従来の利用促進に加えてさらなる地域の支援をお願いする必要がある、来年度中にはその方策を見極めたいという考え方であるとの報告があった。

(1) 第6回協議会議事録の確認

- ・ 第6回協議会の議事概要について、議事録の確認がなされた。

(2) 報告事項

○ 以下の事項について、事務局、委員から資料に基づく報告があった。

①平成22年度 実施事業の概要(11月以降)

- ・ 事務局より報告。

②平成22年度(～12月)の神戸電鉄粟生線の輸送人員実績

- ・ 三津澤委員より報告。

③平成23年度 協議会運営スケジュール(案)

- ・ 事務局より、平成24年度以降の取組方針に関する議論も含め、平成23年度には年間5回の開催予定であるとの報告があった。

④平成23年度以降の取組みに関する考え方

- ・ 事務局より、平成23年度事業計画については、経過措置による国の補助を活用し、本年度の実施状況等も勘案して内容を検討のうえ、次回協議会に提示すること、平成24年度の取組みについては、国の補助打ち切り後の取組み方針や事業規模・内容等について検討し、平成23年度の協議会に提示・議論していただきたい旨の報告があった。

○ 委員より以下の意見が出された。

- ・各種事業や粟生線の実情について、日常粟生線を利用していない住民への PR が十分でない。
- ・シニアパスについて、本人確認の必要性はあるが写真貼付は省略できないか。70歳以上の年齢制限や3か月で20日間の日数設定は利用しにくいので条件を緩和できないか。温浴施設の「ゆびか」とのタイアップをしてはどうか。
- ・平日の昼間は100円にするとかの思い切った割引はできないか。
- ・まだ地域住民の危機感が薄い。費用対効果の低い事業を続けるだけでなく、「もっと乗らなければならない」という意識を高める情報発信が必要。
- ・神戸新聞の報道以来、路線が無くなったらどうなるか心配する声が高まっている。粟生線の輸送量をバスで代替することは無理で、通学者にも影響が大きい。
- ・高齢者対策のための施設整備など、利用しやすい環境整備が必要ではないか。
- ・福祉パスによるバス料金割引の問題はあるが、バスとの競合対応のため、バスより少しでも安い運賃設定はできないか。
- ・クリスマス列車をきっかけに子供が親を誘って利用するケースもあると聞いており、このような地道な活動も必要である。本年度の事業について、費用対効果が十分でないとしても、実施しなければ5.6万人の効果は出てこなかった訳で、試行錯誤しながら効果を高めていくことが必要ではないか。
- ・関心を高めるという点でイベント等を実施した意味はあったと思う。今後、それを住民の行動や運動に発展させていくことが必要である。

(3) 議 事

■ 議案1号「平成22年度 神戸電鉄粟生線地域公共交通活性化・再生総合事業計画(変更案)の承認」について

- ・本年度事業については、当初計画(70百万円)と比べてハード系の施策よりも利用促進や認知度向上に即効性の高い施策を優先的に実施したこともあり、事業費としては約53百万円の規模となる。特に前倒し実施した高齢者向けのシニアパスによる利用者増加への寄与もあり、本年度実施事業全体で約5.6万人の利用増があると見ている。実施事業の内容がほぼ固まったので、本年度の事業計画として承認いただきたいとの報告が事務局よりあった。
- ・座長より、どこまで分析できるかという問題はあるが、例えば区間別とか時間帯別とかの詳細分析を行うことで、コストパフォーマンスを考えた効果的な施策に重点を置いて取り組んでいく必要があるとのコメントがあった。
- ・事業規模は当初計画より減額となったが、5.6万人の利用増を目指して取り組んでいくということで議案1号が承認された。

■ 議案2号「平成22年度予算（変更案）の承認」について

- ・事務局より報告があり承認された。

■ 議案3号「平成22年度神戸電鉄粟生線 地域公共交通活性化・再生総合事業計画に関する事後評価の承認」について

- ・本年度事業の事後評価を行い所定の様式に整理して国に提出することになっており、その内容について事務局より報告があった。

○ 委員より以下の意見が出された。

- ・ 企画乗車券販売機設置駅（3駅）の選定基準は何か（志染駅には設置されないのか）。また今後の設置予定はどうなっているか。

⇒ 志染駅は終日有人販売しているため設置していない。今回は乗降者数や地域バランスも考慮して3駅に設置したが、設置駅の順次拡充も考えている。（三津澤委員）

- ・ アンケートなど 住民の要望やニーズ を聞くようなことはしないのか。

⇒ 実施施策については協議会での意見や目的に照らして検討している。また、施策実施の際には利用者にアンケートをとっているものもあり、できるだけ利用者ニーズを踏まえた取り組みを続けていきたい。（三津澤委員）

○ 座長より以下のコメントがあった。

- ・ 具体的な成果として、できるだけ定量的な評価を入れるようにすれば、今後の実施施策のウェイトづけにも反映できる。

- ・ 例えばノーマイカーデーなど、行政と連携した取り組みについても記載してもらいたい。

- ・ イベントによる利用者は土・日が中心だが、高齢者は平日の空いている時間帯の利用につながる。誰にどのようなアピールをしていくかは重要な視点である。

- ・ 活性化のポイントとしては、① 行政とタイアップして鉄道を利用しやすい地域構造にまちづくりをしていくこと、② 地域住民に危機感を認知してもらった後、実際の利用行動など次のアクションにつなげていくこと、③ 国の補助がなくなった後も持続可能な方向性を見出していくことが大事である。

○ 委員より以下のコメントがあった。

- ・ 新聞報道や市広報での情報発信はあるが、地域住民の反応・関心はまだ十分ではない。住民との意見交換会などもやっていかねばならないと思う。

- ・ 協議会の議論をいろんな形で地域住民に伝えて、乗ってもらえるようにしていく取り組みが必要である。行政の若手職員の研究会などを通じて地域住民に働きかけを考えていきたい。

- ・ 資料－８について、本日出された意見も加味したうえで、座長と事務局で確認のうえ国に提出することが承認された。
- 閉会にあたり座長より以下のコメントがあった。
 - ・ 公共交通の運営の厳しい地域では、住民が必要としなければ公共や民間で運営していくことはできない。新聞報道を契機に危機感が高まりつつあると思うが、社会的なインフラとして必要となる鉄道を残すには、今から地域住民自身が利用していないと残すことができなくなる。鉄道を中心とした地域づくりやまちづくりなど、行政と地域住民が一体となって取り組んでいくという視点が重要である。

閉 会

以上

第7回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 出席者（敬称略）

○委員

氏名	所属・役職	出欠
山本 雄司	神戸市企画調整局 企画調整部 主幹	代理出席
西山 誠	三木市 技監	
小林 清豪	小野市 副市長	
三津澤 修	神戸電鉄株式会社 常務取締役 鉄道事業本部長	
中垣 千秋	押部谷町連合自治協議会会長	
中野 美都子	押部谷町連合自治協議会副会長	
蓬莱 道龍	前 三木地区区長協議会会長	
安福 恵子	三木市区長協議会連合会会長	
田中 歳彦	前 小野市連合区長会会長	
多鹿 豊	小野市商店街理事	
土井 勉	京都大学大学院 工学研究科 特定教授	

○オブザーバー

氏名	所属・役職	出欠
浪越 祐介	国土交通省 近畿運輸局 企画観光部 交通企画課長	
藤井 浩一	国土交通省 近畿運輸局 鉄道部 計画課 課長補佐	代理出席
宮本 健一郎	兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課 鉄道係長	代理出席
若林 尚宏	兵庫県 神戸県民局 総務室 地域企画課主幹	代理出席
土取 充	兵庫県 北播磨県民局 総務室 まちむら交流参事	
山本 琢也	神戸市西区 まちづくり推進部 まちづくり推進課長	